

Soil Science and Plant Nutrition 特集セクションの投稿原稿募集
Special Section Call for Papers for
Soil C and N Dynamics by Land Use and Management Changes in East and Southeast Asian
Countries (Soil C and N by LUMC)

以下のとおり特集セクションを予定しておりますのでご案内します

(To read Call for paper of the special section for Soil C and N by LUMC, click the link below)

<https://think.taylorandfrancis.com/sspn-2018si2/>

特集タイトル：東と東南アジア諸国における炭素・窒素の動態変動に及ぼす土地利用と管理の変化の影響 (Soil C and N Dynamics by Land Use and Management Changes in East and Southeast Asian Countries)

刊行予定時期：2020年第1号 (Volume 66, Issue 1)

趣旨：

地球温暖化によってもたらされた異常気候は、日本国内のみならず、世界の各地で頻発してきた。温室効果ガスであるCO₂、CH₄およびN₂Oの大気中濃度は少なくとも最近の80万年前例のないレベルに増加してきた。過去260年の間に大気中のCO₂濃度上昇は、主に化石燃料排出によるものだが、人為的な土地利用変化も化石燃料排出量の半分と見積もられている。そのため、土地利用と管理の変化が土壌炭素貯蔵量の変化や温室効果ガス放出に与える影響は、世界中の国々で研究されている。また、国連気候変動枠組条約では、温室効果ガス排出・吸収目録のインベントリを作成することが義務付けられ、土地利用と管理の変化による温室効果ガス放出量の増減の見積もりは、より精緻化した結果を求められている。さらに、国連気候変動枠組条約では、各国は各自の温室効果ガス排出量の削減目標を掲げている。目標を達成するために、各国とも農業分野に期待を寄せている。特に、土地利用と管理の変化などの人間活動による温室効果ガス排出量の把握は、重要課題になっている。

また、東・東南アジアにおける土地利用と管理の変化が多様であり、インドネシア等熱帯林からの農地開発および日本等の温帯水田の転作と放棄は、その典型的な事例である。しかし、東・東南アジアの国々における土地利用と管理の変化が土壌中の炭素・窒素の動態変動および温室効果ガス放出に与える影響に関する研究成果は十分発信されず、将来に向けての地球温暖化の緩和策・適応策に活かされていないのは現状である。そのため、提案者らは山形大学と岩手大学大学院連合農学研究科の支援を受け、2018年9月10-12日に鶴岡で「東と東南アジア諸国における炭素・窒素の動態変動に及ぼす土地利用と管理の変化

の影響」に関する国際シンポジウムを開催し、東と東南アジア地域における多形態的な土地利用変化および農地管理の変化から生じた土壌炭素・窒素の動態変動が地球温暖化に与える影響について、各国の研究者らが各自の研究成果を発表し、活発な議論が行われた。そこで、今回の国際シンポの研究成果を土台として、国際シンポ以外に東と東南アジア地域における関連研究成果をさらに募集し、一つにまとめて、SSPN スペシャルセクションとして発信する。

論文投稿方法：

通常号のなかでスペシャルセクションとして掲載することを前提とし、SSPN への投稿システム **Scholar One Manuscript** から投稿願います。その際、**Type of Manuscript** で 'Special section for sensing ICT' を選択の上、通常の論文投稿手続きを行ってください。投稿料は、他の投稿論文と同様、著者が負担になります。投稿を希望される投稿者は **2019年1月31日までに** **ゲスト EIC 宛て** (cheng@tds1.tr.yamagata-u.ac.jp) にメールで連絡の上、2019年5月31日までに投稿を完了をお願いします。関連する分野の皆様からの投稿お待ちしております。

ゲスト EIC

程 為国 山形大学

ゲスト ED

白戸 康人 農研機構・農業環境変動研究センター

高階 史章 秋田県立大学

鳥山 和伸 日本土壌肥料学会

八木 一行 King Mongkut's University of Technology Thonburi, Thailand

Dr. Benito Heru Purwanto, Gadjah Mada University, Indonesia